

第三者評価結果（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 福祉総合評価機構

②評価調査者研修修了番号

SK18282
18-B032

③施設名等

名称：	明星園
施設長氏名：	伊東 俊祐
定員：	50 名
所在地(都道府県)：	長崎県
所在地(市町村以下)：	長崎市磯道町748
T E L：	095-878-4953
U R L：	http://myoujyoukai.jp
【施設の概要】	
開設年月日	1956/5/25
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 明星会
職員数 常勤職員：	32 名
職員数 非常勤職員：	8 名
有資格職員の名称（ア）	社会福祉士
上記有資格職員の数：	4 名
有資格職員の名称（イ）	精神保健福祉士
上記有資格職員の数：	1 名
有資格職員の名称（ウ）	臨床心理士
上記有資格職員の数：	1 名
有資格職員の名称（エ）	栄養士
上記有資格職員の数：	1 名
有資格職員の名称（オ）	保育士
上記有資格職員の数：	18 名
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の数：	名
施設設備の概要（ア）居室数：	
施設設備の概要（イ）設備等：	
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

子どもの権利に関する条約の精神を尊重し、子どもの最善の利益が尊重されるよう援助する。
--

⑤施設の特徴的な取組

こどもたち一人ひとりが他にかけがえのない人格的存在であることを認識し、お互いの信頼関係と共同生活の体験をもとに「思いやり 助け合い 労り合う」関係の中で、こどもたち自らが様々な困難を乗り越えて最大限の自己実現ができるように支援、援助する。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2019/9/30
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2020/3/23
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成28年度

⑦総評

【特に評価の高い点】

・将来の福祉人材育成としての実習生指導

実習生受け入れマニュアルには、将来の人材育成という観点をもって指導にあたるなど基本方針が定められ、職員にも受入れの重要性が伝わる内容となっている。実習にあたる担当職員は、年度毎に担当が代わり、相談援助実習には社会福祉士養成指導者特別研修修了者を配し、専門性にも特化した指導を行っている。また、子どもとの関わりを通して、ケアワークやソーシャルワークとしての気づきをスーパーバイザーや担当職員と振り返る等援助技術の向上へと繋げ、将来の人材育成を目的とする基本方針に沿い、実習における積極的な姿勢は優れた点である。

・地域との交流を通しての子どもの育成支援

地域との交流により子どもたちの社会性を養い、地域住民としての責任と役割を担うことを目的とした、地域との関わりに関するマニュアルを整備している。地域の自治会や子供会に参加し、ボランティアが支援を行う体制を整え、地域の行事への参加や事業所の園庭で行われる夏祭りを実施している。施設長は、地区自治会にも参加しており、地域代表として学校の会議に参加するなど地域に向けた日常的なコミュニケーションも心掛けている。施設が子どもの養育支援の上で、地域との関わりを重要視しており、目標に沿って日常的に地域と関わっていることは特長である。

・子どもの気持ちに寄り添った心理的ケア

心理士は問題のある子どもに面接することを勧め、本人の意向を尊重し同意を得て、心理室を利用し子ども主体で箱庭などのプレイセラピーを行っている。その後、面接で気になったことを担当職員へ伝え支援に役立てることもある。心理士が各ホームへ出向くこともあり、子ども一人ひとりの独自プランを作成している他、ライフストーリーブックを使用し、これまでの生活を振り返られるよう工夫している。更に、児童相談所に通所している子どもに付き添うなど子どもたちとのかかわりを深めている。心理担当職員を中心に、子どもの自主性を重んじ、思いやりや労り合いを大切に、子どもの気持ちを確認しながら心理的ケアが行われていることは特筆すべき点である。

【改善が求められる点】

・中・長期計画の策定

「家庭的養護推進計画」において、短期（5年ごと）及び中期（5年～10年）の計画を策定しているが、運営や設備投資等の計画が含まれておらず、本来の中・長期計画とはなっていない。また、中・長期計画における収支計画についても策定されていないため、理念や基本方針の実現に向けた目標を明確にし、目標に対して支援の内容、組織体制や設備整備、職員体制、人材育成等に関する具体的な計画になるよう期待したい。

・養育・支援の水準を保つ標準的な実施方法

現在のところ、養育支援に関しては運営指針に明文化されているが、養育・支援の実際の現場での細かい支援内容となっておらず、業務主体のマニュアルとは言えない。施設における養育・支援は子どもの状況や必要とされる支援等に応じて柔軟に行われるべきであり、いかなる職員も実施できる内容と子ども一人ひとりに対する個別的に実践すべき内容の組み合わせであることから、理念や基本方針に沿った形での整備を期待したい。

・職員の育成に向けた仕組みづくりの取り組み

職員一人ひとりの育成に向け、施設の目標や方針を徹底し、職員一人ひとりの目標の設定等が適切に行う必要がある。期待する職員像や理念・基本方針を踏まえ、職員一人ひとりについて目標項目や目標水準、目標期限など明確にすると共に到達可能な目標となるよう定期的な個別面談等を行い、職員の目標や要望の聴取、施設からの希望等を伝え、互いに同じ方向性が見いだせるような仕組みづくりが望まれる。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

地域にある施設として、周りの人々とのつながりを大切にしている。これからは、地域にどのようなニーズがあるか探り、私たちも貢献できるように具体的に検討していく必要がある。

社会から求められる児童養護施設の高機能化・多機能化に応じて、どのように運営を行っていくか設備投資等も含めて具体的に計画を立てていくように努めたい。

職員確保が課題である。新しい人材確保に向けて大学など積極的に働きかけていくように計画的に取り組んでいく。

また、職員一人ひとりと個別に話す時間を取り、目標や希望をもって互いに支え合い高め合う施設運営を目指したい。

自己評価結果表【タイプA】（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。 <input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	b ○ ○ ○ ○ ○ ○
【コメント】 法人理念は開設当初から引き継がれており、その思いを言葉に表した「思いやり 助け合い 労り合う」を基本方針として子どもたちを支える職員の行動規範となっている。その中で特に施設長は、子どもたちに普通であたりまえの生活を営めることを保障することを何よりも譲れない点としている。 理念や基本方針は、ホームページやパンフレット、毎年作成される事業計画に記載し、年度初めの職員会議で職員へ周知を図っているが、それ以外の周知への工夫・取組みは確認できない。今後の更なる取組みに期待したい。	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 子ども数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設（法人）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	b ○ ○ ○ ○
【コメント】 各種研修会や通達を通して、社会福祉事業全体や地域の動向を把握している。収集した情報を分析し、地域での児童家庭支援センターや一時保護施設等、多機能化の必要性を考えている。また中学校PTAや補導員が立ち上げた子ども食堂に関しても栄養士や調理員の派遣ができないか検討中である。 養育・支援のコスト分析については、子どもの推移・利用率の分析等を毎年度行い、次期計画に生かしている。	

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

【コメント】

経営状況や改善すべき課題については役員間で共有を図り、職員会議で職員へ周知し、人材確保・職員のメンタルヘルス・リーダーの育成等の課題の改善に向けて組織的に取り組む体制を整えている。
特に実習生の育成に力を入れ、担当職員に社会福祉士養成指導者特別研修修了者を配し、専門性に特化しており、人材確保等に繋げている。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	c
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	

【コメント】

家庭的養護推進計画の策定はあるものの、理念、基本方針に基づいた施設の中・長期計画を作成していない中での単年度の事業計画となっている。今後は、作成した中・長期計画の内容を反映した単年度の計画作成に期待したい。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】

中・長期計画が作成されていない中での、単年度の事業計画となっている。今後は、作成された中・長期計画の内容を反映した単年度の計画作成に期待したい。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

事業計画の策定にあたっては、施設長や一部職員の参画のもとで毎年2月から3月にかけて前年度の内容の振り返りを行い次年度の事業計画を作成している。計画の内容については事業計画を4月に職員に配付して職員会議で計画周知や理解を促す取組を行っている。
 ただし、実施状況の確認や評価は定期的なものではないため、今後、事業計画の評価・見直しの手順の構築に期待したい。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

入所時及び年度初め保護者に事業計画を配付しており、子どもには行事予定を渡している。
 事業計画の中には、養育・支援、施設・設備を含む居住環境の整備等子どもの生活に密接に関わる事項もあることから、子どもや保護者が理解しやすい資料の工夫や説明の機会等を設け事業計画の周知が望まれる。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

第三者
評価結果

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

毎年担当者を決め、自己評価で振り返りを行い評価する体制を整備しており、職員への指導や面談など結果を有効に活用する等、施設全体としてPDCAを回す仕組みを構築していることは、施設の特長である。
 特に人権擁護チェックリストを利用して、施設用を年1回、職員用は年2回、養育支援内容を確認しており、質の向上に向けた取組を組織的に行っている。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

前回の第三者評価結果について研修担当の職員が検討しているが、課題自体についての捉え方について職員間での差異があり、共通課題として全体で取組む体制ができていない状況である。
第三者評価に関して施設全体で課題として解決に向けて計画的に取り組めるよう、職員参画の下で改善策の検討や改善計画を策定する体制を施設内に整備することが待たれる。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

施設では、14項目からなる施設長の役割マニュアルを作成しており、役割や責任について明文化している。施設長は子どもにとってあたりまえの生活を保障することを第一義としており、自ら果たす役割を14項目に定め積極的に取り組んでいる。
また、有事における施設長の役割は災害マニュアルに明記し、最初に施設長に連絡が入る体制となっており、不在時は副施設長に権限委任し、各セクションリーダーが対応することを明確に示している。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

法令遵守について施設長は施設長研修会や各種勉強会に参加し、国の施策や必要な情報を得る機会を持ち、取得した内容を職員会議等で報告し、職員に対し遵守すべき法令等を周知している。利害関係者については会計ルールに従い、適正な関係保持を行っている。今後、守秘義務やプライバシー保護等、幅広い分野での遵守すべき法令についての認識の共有を更に深めるための研修や仕組み作りの検討に期待したい。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設長は実施する養育支援の専門性向上のため、自身が意欲的に外部研修等で知識を得ることに努め、得た情報は職員にフィードバックしている。また、職員にも教育・研修の場を与え、意欲や意識改革を図っている。また、各ユニットにリーダーを配しスーパーバイズができる仕組みを整え、定期的な会議によって課題解決に向けてアドバイスを行う等、各ユニットの質の向上に向けてリーダーシップを発揮している。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>

【コメント】

経営改善や効果的な業務実施のため、施設長は事務と連携し財務面を考慮しながら、職員の働きやすい環境整備や人員配置等、労務管理を行っている。定期的なリーダー会議によって施設内に同様の意識を形成すると共に家庭的養護推進計画を通して、人事や労務、財務等の現状分析・評価を行い、現状に即した体制を整え、自ら積極的に参画し指導力を発揮している。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

第三者
評価結果

①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	<input type="radio"/>
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設では、養成校を訪問し職員確保に向けて協力を要請することを方針としており、採用活動に関しても養成校を訪問し実施している。また、夜間を含む業務を行うなど各種処遇改善加算職員の配置にも積極的に取り組んでいる。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【コメント】

倫理綱領を職員全員に配付し「期待する職員像」を明確にし、専門性の向上や運営の改善向上など職員自らが将来の姿を描くことができる内容となっている。職員の資格取得に関しては、成果を評価し手当を支給している。処遇改善の必要性を評価するため、処遇改善加算に対する研修に参加するなど行っている。年度初めに職員は目標を提出すると共に、年に1回個人面談を実施して改善策等を検討しており人事管理に役立てている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

健康を維持し働きやすい職場となるため、年に1度の個人面談で健康診断や勤務実績の確認、また、ケアリーダーが窓口となり、職員の相談を受け付けるなど取り組んでいる他、職員の就業状況や意向を把握している。施設では、ワークライフバランスに配慮して、育児休業後は宿直日数を月に1回に減らし、残業もできるだけ減らすよう配慮している。また、人材確保・定着の観点から、歓送迎会や新年会、夏休み明けの慰労会など働きやすい職場づくりに取り組んでいる。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

職員は年度初めに自己評価表を提出している他、職員一人ひとりが目標を設定し、目標に対する反省や改善に繋げている。ただし、現在のところ、目標水準や目標期限など明確に示しておらず、進捗状況や目標達成度の確認も行っていない。今後の検討・取組みが望まれる。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

家庭的養護推進計画に、職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。また、事業計画において策定した研修計画を基に研修を実施し、研修後には施設内にて報告を行い職員間で情報共有している。ただし、研修計画や受講した研修内容の評価・見直しは行っていない。今後の検討・取組みに期待したい。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

職員は年に一度必ず研修に参加するよう研修案内を回覧している。入社1年目には新人研修、3年目以降は外部研修に参加する仕組みとなっている。申し出がない場合は、研修担当者と施設長で指名して参加を促している。リーダーがスーパーバイザーの資格を取得しており、年に7回外部講師を招聘し支援に関しての講義を実施している。新入職員へのOJTに関しては、教育担当者が新人研修として夏休み前と2月に教育する仕組みがあり、研修の機会を確保している。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

実習生受入れに関しては、将来の人材育成という観点から、どのような支援が必要かを学ぶ機会となっている。実習は、年度毎に実習担当職員が行う他、相談援助実習は社会福祉士養成指導者特別研修修了者が担当している。実習指導者は、大学で行われる研修に参加し、指導について学習している。実習はそれぞれの学校が用意したプログラムを中心に進められ、専門職の仕事内容についての講義なども行っている。実習中は、実習依頼校の教員が施設を訪問し、実習生の目標や成果について協議するなど連携している。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

施設の予算・決算情報、第三者評価結果、苦情体制、苦情結果は、施設のホームページにて公開している。更に施設の理念や事業計画・事業報告はワムネットに掲載している他、養育・支援内容はパンフレットに載せている。施設訪問者や施設主催の夏祭り参加者に広報誌の「こんにちは」を配付するなど情報を公開していることが確認できる。
ただし、法人の理念や基本方針等について地域や社会に対し説明するなどの取組みは確認できない。今後の検討に期待したい。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

透明性の高い適正な経営・運営のための取組みとしては、年に1度の監事監査の他、毎月会計事務所による月次監査がある。また、会計事務所から計画的な積立金の計上等の指導を受けている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<input type="checkbox"/>
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】 地域の一員として日頃から地域に溶け込んで生活を送ることを目標に「地域との関わり方マニュアル」を整備し、自治会や老人会、地域の行事に参加している。事業所の夏祭りにボランティアとして参加している中華料理店から、毎年夏祭りでの売り上げを好意により寄付を受けるなど支援体制が見てとれる。養育支援の面でも地域とのかかわりの重要性を大切に考えており、全職員が学校の友人など施設に遊びに来やすい状態を作っている。		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】 ボランティア受入れにより入所児童の支援向上を図ることを目的とし、マニュアルやボランティア名簿を作成している。ボランティア受け入れに際しては研修を実施し、子どもとの交流を図っている。本の読み聞かせや縫製など定期的に訪問があり、子どもたちの楽しみとなっている。		
(2) 関係機関との連携が確保されている。		
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
【コメント】 施設は子どもの状況に対応できる関係機関等のリストを作成している。特に関係の深い児童相談所や小中学校とは連絡会を定期的に行っている。また、地域の子どものケース会議に参加し体験談等を話し、問題解決に向け協議している。施設では、障がいを持つ子どものために就労支援事業者とネットワークを結び支援に繋げている。		

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通して、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○
【コメント】 地域の子育て支援事業である「夢クラブ」に職員を月2回派遣し相談を受けている。 法人の理事には民生委員がおり、地域のニーズを掘り出すために協働するなど、地域福祉の向上のため取り組んでいる。		
②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○
【コメント】 地域のニーズに基づいて、園庭をラジオ体操の場として提供したり、地域の子どものために図書室開放を行っている。 また、施設の有する機能還元の目的で、非常災害時の一時避難所として施設を利用できるよう取り組んでいる。 また、施設内には地域交流スペースがあり、地域の子供会や子どもの父兄会開催場所として提供するなど公益的な事業を実施していることが確認できる。		

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○
【コメント】 理念や基本方針に子どもを尊重した養育・支援の実施について明示している他、倫理綱領を職員が理解して実践するために一人ひとりが携帯できるカードサイズで配付する等、工夫している。また、人権擁護・人権侵害防止に向けた取組みとして、全国社会福祉協議会のチェックリストを活用し定期的に自己点検を行い、職員自身の養育・支援の見直しや問題行動に繋がりにくい内容の確認を行っている。 ただし、現状では子ども一人ひとりの支援についての標準的な実施方法の整備はないため、今後、子どもを尊重した養育・支援を反映した標準的な実施方法の策定に期待したい。		

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	

【コメント】

職員が携帯している“倫理綱領”や子どものプライバシー保護規定マニュアルには、子どものプライバシーの尊重と秘密保持について明記しており、職員の理解を深める工夫が見られる。子どもの居室は個室がほとんどであり、職員は入室する際にはロックや声掛けしている。子どもたちはドアのガラス面にシールで目隠しし、中が見えないように工夫する等、自由に年齢に応じた暮らしができるよう配慮していることが見てとれる。子どもには権利ノートを基に権利やプライバシーが守られていることの周知を図っているが、保護者への周知の取組みは難しい現状がある。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

入所時に子どもに渡すパンフレットは質疑形式で子どもにもわかりやすい工夫を行っている。また、ホームページを通して、子どもや保護者等に施設の特性等を紹介している。
 事前に見学等の希望に対応し、パンフレットや広報誌を利用して説明を行っている。施設では、見学に訪れた子どもを笑顔で迎え、明星園は我慢するところではないと伝えている。
 保護者等への情報提供については、記載内容に変更があった際に見直しを行っている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

養育・支援の開始に際し、「入所時の子どもと家族への説明マニュアル」に沿って、子どもや保護者に配慮した説明に努めている。具体的には、家から持参したいもの・施設で使いたいもの、クラブや塾についてもできる限り自己決定を尊重している。入所に関する同意は児童相談所が得ている他、施設では予防接種等についての同意を得ている。
 入所後、施設長が権利ノートを活用して子どもと読み合わせを行うことで自身の権利等、理解を促している。意思決定が困難な子どもへの説明には、職員と一緒に生活する中で時間をかけて伝えている。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

養育・支援の内容変更にあたり、著しい変更や不利益が生じないよう児童相談所と話し合いながら、本人や家族に過程を説明している。他の施設や地域・家庭への移行については、子どもの関係機関が一堂に会する要保護児童対策連絡協議会で協議を行っている。他施設移行等引継ぎ文書の定めはないが、必要に応じて情報提供を行っている。施設退所後に子どもや保護者が相談出来る窓口は担当職員が行っており、相談方法等、説明しているが充分とは言えず、今後、切れ目のない養育・支援を実施するための体制構築に期待したい。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

毎年、第三者評価の利用者アンケートを利用して無記名の子どもの満足調査を行っており、必要に応じて子どもへの個別面談や心理士の面談を行っている。また、把握した結果は研修係が分析・検討を行い、各ユニットの生活改善に繋げている。
各ユニットで自治会議であるトークデーを定期的に行い、ユニットでのルールの変更や子どもの意向を汲み取っている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

施設では苦情解決の体制を整備しており、年1回第三者委員会を開催している。施設内に苦情解決者や第三者委員の連絡先を明示した掲示物を掲示しており、苦情解決の仕組みをわかりやすく説明している。
 更に、子どもが無記名で意見や相談ができるよう、施設内の目につかない場所に子ども相談ポストを設置している。解決結果はサポート委員が管理し苦情内容の受付・解決の記録を保管しており、出された苦情に対する検討内容・対応策は、内容に応じて直接表出した本人に報告するか自治会等でフィードバックしている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

子どもが相談したり意見を伝える相談先は、第三者委員として学校の校長や児童委員を選任し玄関に写真を掲示しており、子どもは施設内の苦情受付担当者だけでなく、第三者委員にも相談出来ることを理解している。
 その他、子ども相談ポストの利用やトークデーでの意見交換、権利ノートの学習会で複数の相談方法があることの周知を図っている。
 相談スペースとしては、子どもの居室や施設長室、心理室等、子どもが相談しやすい場所で相談を受けている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【コメント】

職員は日頃のコミュニケーションを大切にするよう職員や子どもに伝えており、相談があった場合は、できる範囲のことは叶え、即答できない場合は施設長に相談して迅速に答えている。相談ポストは投函しやすい場所に設置し、子どもにわかりやすく説明した文書と外部相談先を掲示や配付にて知らせ、年1回のアンケートを通して子どもが日々の中で相談しやすい環境を整備している。子どもから出された意見や苦情については受付担当者が中心となり検討や対応を行っているが、今後、相談についての記録方法や手順、対応策等を定めたマニュアル整備の検討、取組みが望まれる。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

ユニットリーダーやケアリーダー、栄養士、書記が参加するリスクマネジメント委員会を設置し、マニュアルも作成している。

また、ヒヤリハット事故報告書で事例を収集し事故防止に取り組んでいる。収集した事例については、職員会や朝礼で防止策を報告しており、危険なものを置かないことや暗い場所に明かりを点けるなどの取組みを行っている。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

衛生管理者として栄養士を配置し、感染症の予防と対策に関してマニュアルを作成している。毎年、インフルエンザ流行前には衛生管理者を中心に園内研修を実施し、予防策として手洗いやうがいを実施している。インフルエンザ等で感染者が発生した場合は、部屋を準備し隔離するなどの対応を行うなど、子どもの安全確保のため取り組んでいる。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

災害時の対応体制としては、災害ごとに組織表や対応マニュアルを作成している。施設が土砂災害地域であることが地域のハザードマップにて確認できる。そのため対応するための訓練を実施すると共に避難確保計画に安否確認のための連絡網を整備し職員に周知を図っている。また、食料等備蓄リストを作成し、栄養士が管理者となり備蓄を整備するなど、災害時の安全確保に取り組んでいる。

2 養育・支援の質の確保

(1)	養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	c
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	

【コメント】

現在のところ、標準的な実施方法については文書化しておらず、今後の課題となっている。前向きに検討し取り組むことが望まれる。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	c
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	

【コメント】

標準的な実施方法については、作成されていないことから見直し等はできない。作成後は、定期的な見直しが望まれる。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

施設の自立支援計画はユニットリーダーを責任者とし、マニュアルに沿って作成している。入所時は、児童相談所のアセスメントを基に、子ども本人や家族の意向を踏まえ作成し、担当者を含めて協議を行う仕組みとなっている。支援困難なケースに対しては、職員会議で学校の先生も含めて話し合いを行うなど配慮している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

自立支援計画の評価・見直しは10月と3月に実施している。見直し等については、職員全員で行うことになっており全職員が計画を周知しているものの手順等は定めていない。子どもや家族に問題が発生した場合は計画を変更することは決めている。尚、計画の見直しに際しては、標準的な実施方法にも反映させるべきであるが、現在、標準的な実施方法が未作成のため明確になった課題等は文書として残すよう工夫している。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設では、子どもの身体状況や生活状況について育成記録に記載している。また、自立支援計画に基づく支援は、支援記録に記している。
支援等における注意事項等は朝礼で情報共有しており、参加できない職員へは朝礼ノートで共有できる仕組みがある。現在、パソコンのネットワークシステムを利用した情報共有は整備中であり、掲示板により回覧している。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもの記録や個人情報に関しては、データ管理責任者を設置し、それぞれマニュアルを作成している。また、個人情報の取扱いについては、入所時に子どもや保護者に説明し、広報誌に子どもの顔が出ないように配慮している。
なお、記録の管理についての職員への研修は行われていない。今後の取組みが望まれる。

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
<p>① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。</p>	<p>c</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>子どもの権利擁護に関する取組みを職員に周知徹底し、運営指針に基づいた養育・支援を実施している。また、子どもの思想・信教の自由について配慮し保障している。</p> <p>職員は年2回人権擁護・人権侵害防止のためのチェックリストを実施し自己評価を行っているが、更に子どもの権利擁護に対する理解を深めるために、施設として定期的に具体例を基に検討する機会を設けることが望まれる。</p>	
(2) 権利について理解を促す取組	
<p>① A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。</p> <p><input type="checkbox"/>年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>子どもが自身の権利擁護に関して学ぶ機会は、施設長が子どもと一緒に権利ノートの読み合わせを行っており、年齢に応じた説明を行い理解を促している。</p> <p>現在、職員のための子どもの権利について学ぶ機会が設けられていないため、まずは職員が子どもの権利擁護について理解を深め、子どもに説明する機会を設けることが望まれる。</p>	

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもの出生や生き立ち、家族の状況については個別の事情に応じて、心理、生活状況、年齢等を考慮して慎重に、一人ひとりのタイミングで伝え方や内容について職員間で検討を重ねている。

子どもに事実を伝えた後は職員間で共有し、子どもの変容を見守りながらフォロー出来るよう職員間で状況確認し共有している。

施設では、個人アルバムを作成し子ども本人が所持するよう支援しているものの、最近では入所の動機も変化しており、成長の過程を振り返ることや生き立ちの整理等を必要としない子どもが多い現状である。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

被措置児童等虐待の届出・通告マニュアルがあり、就業規則に職員の体罰防止について服務規程・制裁・懲戒を定めている。マニュアルには被措置児童等虐待に関する対応の流れがチャート式に定めており、それに基づいて迅速に対応することとしている。

ただし、記載内容に通告等を受理する際に配慮や留意することを取り決め、届出者や通告者が不利益を受けることのないよう仕組みの整備の検討が望まれる。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	
	<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	○

【コメント】

ユニットごとにトークデーの時間を設け、意見を出し合いながら生活に必要な掃除の分担やゴミ捨て、お風呂の時間帯等を話し合いで決めており、余暇の使い方については、21時までに小学生は就寝する等大きな枠組みだけ決め、あとはそれぞれ自由に過ごしている。月1回のフリーデーに職員と一緒に買い物に出掛けたり、小遣い帳を付ける等、金銭感覚が身につくよう支援している。また、小規模化に伴いそれぞれ個室や自由な時間が増えたことで、生活における問題や課題も少なくなり、職員が検討する機会を設けるまでにはない現状であり、以前に比べて改善されていることが見てとれる。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

入所にあたっての受け入れ準備マニュアルを基に、性別、年齢、人間関係を考慮してユニットを決定し、入所当日は職員が笑顔で温かく迎えることに努めている。
 家庭支援専門相談員は家庭復帰に向けての目標や課題を考慮し、施設の子どもの家庭訪問や電話等で現状を把握した上で、児童相談所と連携しながら慎重に家庭復帰への支援を進めている。また他施設への移行についても移行先、児童相談所と調整を図りながら行っている。復帰後の対応については相談窓口となり状況把握に努めている。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

一人ひとりの退所後の生活に向けて、担当職員が卒園予定の子どもと話し合いの場を持ち、そのニーズに沿って関係職員がケース会議を開き、リービングケアの支援を行っているものの、退所者の状況の把握や行政機関等との連携を図りながらのアフターケアは行っていない。退所後のトラブルについて連絡があった場合は施設長が対応を行っている。

退所者が集まる機会として夏祭りがあり、案内にて集まった退所者と現在入所している子どもとの交流の機会となっている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果	
①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	

【コメント】

ユニットに移行したことで各職員は、子どもとの距離感が近くなり、子ども一人ひとりの課題と一緒に向き合うことができ、受容・傾聴の姿勢で子どもと向き合いながら、養育・支援を行っている。

児童票等から子どもの生育歴を把握し、心理士を交えて心理的課題と照らし合わせながら、子どもが表出する感情や言動の背景把握に努めている。

②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○

【コメント】

子どもの発達段階に応じて、添い寝や本の読み聞かせ、入浴時、塾への送迎時等に子どもとゆっくり会話する時間を設け、子どもの基本的欲求の充足に努めている。高年齢児は部活や塾等帰宅時間が不規則になるため、食事の時間を遅らせる等対応している。

ユニット化によって子どもと関わる時間が確保できており、職員と子どもが個別的に触れ合う時間ができ信頼関係を自然に築いている。

③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	○

【コメント】

お風呂の順番を守る、洗濯物をたたむ、起きた時のベッドや部屋の片づけ等、子どもの年齢に応じて生活に必要なことが身につくように支援している。職員は子どもが考えたこと、行うことを頭ごなしにダメとは言わず、見守りながら必要な際に指示・注意・声掛けを行っている。子どものつまずきや失敗のフォローの仕方についてユニットリーダーに相談できる体制がある。職員の勤務シフトを細かく分けており、朝・夕の時間帯は、起床から登校までの援助や下校や入浴、夕飯づくりなどゆとりが取りにくいのが、子どもにとっては大切な時間であるため、職員は子どもに十分対応出来るよう努めている。

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

学習面では幼児期から公文を利用し、中学3年生の希望者は塾へ通っている。また、ピアノやラグビーを習う子どももいる。ユニットでは子どもの年齢や関心事に配慮し、図書、遊具、玩具を準備しており、ゲーム等可能な限り子どものニーズに応えている。特に図書については施設本体に図書室を設け、たくさんの本の中から好きな本を自由に借りることができる。幼児は幼稚園に通い、小中学生は学習ボランティアを活用している。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	○

【コメント】

職員は日頃からユニット内が穏やかで明るい雰囲気になるように心掛けており、職員が子どもの規範となるよう努めている。
また、職員は子どもと共に地域の行事に参加し、社会性を習得する機会を作っている。
職員は、入浴の習慣や歯磨き、手洗い等、子どもが自身の健康管理ができるよう日常的に支援している。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	b
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

平日の夕食は献立が決まっており、ユニットごとに食材が届く仕組みがある。ユニットではリビングで食事しており、家庭的で清潔を保っていることが見てとれる。また、職員も一緒に食事してコミュニケーションを図っており、子どもたちの団らんの場となっている。職員は、高校生や部活の子どものために食事の適温提供ができるよう配慮している。職員が早朝から子どもの弁当を作り家庭の温かさを味わうことができるよう支援に努めている。週末は自由献立で職員と子どもが食材購入や調理を一緒にする機会を設け、おやつ作り等も楽しんでいる。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの衣類は基本的には毎日の洗濯や小学生の衣替えは職員が行い、汚れや破れがないように配慮している。洗濯やアイロンは子どもが見えるところで行い、自主性を促すよう取り組んでいる。衣服に関しては、子どもの自己表現ができるよう、担当職員が子どもの希望を聞きながら好きなものを購入できるよう支援している。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

居室は、中学生以上は個室を基本とし、ベッドや机、身につけるもの、日用品は個人所有としている。個室やリビングは職員が毎日掃除を行い、登校前には本人が自分の部屋を整理整頓し片づけることが習慣となるよう支援している。リビング等共有スペースは家庭的な雰囲気を壊さないよう、張り紙はしないことを決めている。できるだけ家庭的な雰囲気となるよう、個室のレイアウトは子ども本人に任せ、子ども本人が落ち着けるよう配慮している。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

学校の健康カードは複写を保管している他、年に一度は事業所で健康診断を行っている、発達障害を持つ子どもについては、医療機関と連携し対応を行い、薬は職員が管理し服薬を支援している。尚、職員間で医療や健康に関して研修報告はあるものの、学習する機会とまではなっていない。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

性に関する疑問等に関しては、年齢に応じて個別に話している。居室に関しては、小学校高学年以上は男女をユニットで分けている他、性については権利ノートやマニュアルを活用し、正しい知識が得られるよう配慮している。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもが暴力を振るったり、問題行動を起こした時には、本人が精神的に落ち着くまでは見守りを強化し、複数職員で対応し、いつでも職員を交代できるような体制を整え対応している。また、周囲の子どもに被害がないよう別の部屋に避難させるなど配慮している。問題を起こした子どもについては、これまでの生活の背景に配慮し、ケース会議で検討している。職員には暴力に関する研修を実施し、人格を否定しないよう教育している。暴力を受けた職員には心理担当職員や施設長がフォローする体制があり、問題行動に関しては児童相談所との連携も行っている。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>

【コメント】

問題の発生予防のためマニュアルを整備し、ホーム編成や職員配置を検討している。子どもと職員の関係が悪い場合は異動を行い、障がいのある子どもについてはホーム内の子どもに理解を促すよう配慮している。入所間もない子どもは2ヶ月位は落ち着かないため、児童相談所と連携し対応している。子ども間の喧嘩等問題が発生した場合は、職員会議等で共有し思いやりや労り合いの精神についてホーム内で話し合うなど配慮している。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

心理士は問題のある子どもに面接することを勧め、本人の意向を尊重し同意を得て、心理室を利用し子ども主体で箱庭などのプレイセラピーを行っている。その後、面接で気になったことを担当職員へ伝え支援に役立てることもある。心理士が各ホームへ出向くこともあり、子ども一人ひとりの独自プランを作成している他、ライフストーリーブックを使用し、これまでの生活を振り返られるよう工夫している。更に、児童相談所に通所している子どもに付き添うなど子どもたちとのかかわりを深めている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

小学生は学校から戻ると職員の付き添いのもとリビングで宿題を行い、その後に公文を利用して学習している。基礎学力の回復には公文を利用し、学校の先生と宿題の量を調整するなど配慮している。中学生以上は、21時以降に自学を行う他、中学生からは希望により塾へ通うこともできる。幼児や発達障害児のために学習ボランティア2名を活用し、特別支援学校の先生と連携を取っている。翌日の準備は寝る前に行い、小学生は職員が準備の確認を行い、子どもとのかかわりを深め、自主性を促している。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

高校卒業後の進路については、子どもの自己決定ができるようオープンスクールや大学、専門学校の見学を活用している。子どもの意思を尊重し、保護者や学校の意見を聞きながら十分話し合っており、進路決定における経済的な援助として財団等の奨学金を申請するよう情報提供等を行っている。途中で退学や不登校になった場合は、通信制の学校を勧めている。大学等進学で不安定な生活が予想される場合は措置延長を利用するなど、子どもができるだけ自己決定できるよう支援している。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

職場体験は各学校で行われているため、施設独自では行っていないが、就職先については学校と連携しながら自己決定できるよう支援している。資格取得については学校で取り組んでいるものを奨励している他。アルバイトについても学校の許可が必要であるため、夏期、冬期など長期にわたるアルバイトも含め、学校の許可を得て社会体験の機会を得るよう積極的に奨励している。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

家族との相談窓口は副施設長が担当し、家庭引き取りの可能性のある子どもを支援している他、家庭との不和のケースも支援しており、家庭訪問を行うなど相談支援に取り組んでいる。学校行事等の情報は各担当職員が保護者へ伝え、毎月のファミリーデーなど家族との交流ができるよう支援している。一時帰宅後の子どもについては、思いやりや労り合いの関係の下、必ず会って帰宅時の様子など話を聞くなど注意深く見守るよう配慮している。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

家庭支援専門員の役割をマニュアル化し、個々のケースごとに家庭復帰について検討し職員会議で共有している。早期の親子関係再構築が図られるよう支援している。施設では、面会や外出、一時帰宅の事例が多い。児童相談所と連携し家庭訪問を行うなど親子関係の再構築に向けた支援を行っている。